

# 2018年度 日本アーカイブズ学会 総会資料

## 【 総 会 次 第 】

- 1 開 会
  - 2 会長挨拶
  - 3 議長選出
  - 4 定足数の確認
  - 5 議 事
    - (1) 2017年度事業報告 (資料1)
    - (2) 2017年度決算 (資料2)
    - (3) 2017年度会計監査報告 (資料3)
    - (4) 2018年度事業計画 (資料4)
    - (5) 2018年度予算 (資料5)
    - (6) 役員改選 (資料6)
    - (7) その他
  - 6 その他
    - (1) 2017年度認定登録アーキビスト (資料7)
  - 7 閉 会
- <参考資料>
- ・ 会 則
  - ・ 総会運営規程
  - ・ 役員選出規程

※ 当日はこの資料をご持参ください。

2018年4月21日

日本アーカイブズ学会

The Japan Society for Archival Science: JSAS

## 資料 1

### 2017年度事業報告（案）

#### 1. 大会、委員会、および研究集会等の開催・準備

##### (1) 大会の開催

2017年4月22日（土）、23日（日）の2日間、学習院大学を会場として開催され、受付人数で合計200名が参加した。

##### <総会> 【学習院大学南3号館201教室】

定足数確認時点で247名の正会員が出席または委任状を提出しており、成立した（正会員数441名、定足数45名）。2016年度事業報告・決算・会計監査報告、2017年度事業計画・予算が採決（拍手）により承認された。

##### <講演会> 【学習院大学南3号館201教室】

講演者：高埜利彦氏（学習院大学大学院アーカイブズ学専攻教授）

演題：「日本のアーカイブズ制度を回顧する」

##### <ポスター研究発表> 【学習院大学南3号館2階廊下】

奥沢麻里「複数資料群を横断するコンテキスト研究の必要性—「帝都復興事業」を題材として—」

清水ふさ子、山川道子「アニメ制作資料の分析と目録記述の試み—アニメ制作会社アーカイブ室の収蔵資料を事例に—」

戎子卿「ICAの記述標準に準拠したアーカイブズのデータベースを低コストで構築する」

高科真紀「アーカイブズ展示照明の検証—日本・海外の照明管理を中心に—」

千代田裕子、宇都綾子「航空写真の整理方法確立に向けた試み—広島県立文書館所蔵・林野庁撮影写真を例に—」

中井杏奈「超域的アーカイブにおける資料保存の現在：オープン・ソサイエティ・アーカイブの取り組みと「自由欧州委員会コレクション」の位置付け」

山口亮、高田智和「国立国語研究所研究資料室における資料整備の実践と課題—音源資料の取り扱いを中心に—」

山田安仁花「文学資料をめぐる考察—1945年以前の日本における朝鮮人の文学を事例に—」

##### <自由論題研究発表会>

##### 【第1会場 学習院大学南3号館201教室】

橋本久美子「戦時下東京音楽学校のアーカイブズに関する一考察—「出陣学徒」の調査をめぐって—」

加藤和歳「保存履歴からみた文書の保存・整理に関する考察—伊東尾四郎文書を事例として—」

橋本陽「ファイル・シリーズ生成の理念：大郷村役場「フォンド」編成の考察」

大木悠佑「機能分類作成に関する事例研究：立教大学共生社会研究センターを事例として」

渡邊健「市民活動の記録管理とアーカイブズ—練馬区都市計画マスタープラン自主懇談会の場合—」

【第2会場 学習院大学南3号館202教室】

蓮沼素子「まんが関連施設におけるアーカイブズの収集・保存」

浅野真知「事例研究 米国カリフォルニア州の公文書館・図書館・大学アーカイブズ—インタビューの手法を用いて今日的課題を考察する—」

バーリィシェフ・エドワルド「ロシア連邦におけるアーカイブズ管理体制の特色—連邦アーカイブズ管理局（ロサルヒーフ）を中心に—」

藤村涼子「アーカイブズ収蔵施設における歴史資料等の受入業務に係る記録の保管状況に関する考察 —歴史資料等保有施設アンケートを中心に—」

中網栄美子「裁判記録の公開：“時の経過を考慮してもなお” 利用が制限される公文書に関する—考察」

堀内暢行「戦争裁判関係資料の公開処置から考える」

【第3会場 学習院大学南3号館301教室】

齋藤歩「近現代建築資料概要リスト」にみる日本の建築レコードの特徴」

元ナミ「地方公文書館における活動資金獲得の経緯と課題—英米の事例を中心に—」

遠藤満子「核融合研究史料の収集・保存状況と活用に向けての方策—核融合アーカイブズの事例より—」

齋藤柳子、和田華子、芹澤良子「「原爆放射線被害デジタルアーカイブズ」の構築とアクセスポリシー—プライバシー問題を中心に—」

阿久津美紀、徳永祥子「養子縁組に関する記録管理とアクセス支援～新たな特別養子縁組制度への提言にむけて～」

古賀崇「政府情報リテラシー」をめぐる—考察：一次情報・一次資料の側面に焦点を当てて」

<企画研究会シンポジウム> 【学習院大学南3号館201教室】

テーマ：「日本アーカイブズ学会登録アーキビスト制度の発展をめざして」

保坂裕興氏（学習院大学大学院アーカイブズ学専攻教授）

「アーキビスト養成の国際的動向—能力保障型の人材育成—」

加藤丈夫氏（独立行政法人国立公文書館長）

「わが国におけるアーキビスト育成の現状と課題～国の有識者会議と国立公文書館の取り組みを中心に～」

コメント：大友一雄氏（人間文化研究機構国文学研究資料館教授）

(2) 委員会の開催

- 2017年 5月19日（金）国際善隣会館
- 2017年 6月23日（金）国際善隣会館
- 2017年 7月24日（月）国際善隣会館
- 2017年 9月 5日（火）国際善隣会館
- 2017年10月20日（金）国際善隣会館
- 2017年11月24日（金）学習院大学北2号館
- 2017年12月19日（火）国際善隣会館
- 2018年 2月27日（火）国際善隣会館
- 2018年 3月19日（月）学習院大学北2号館
- 2018年 4月13日（金）国際善隣会館

### (3) 研究集会等の企画・開催

#### ①第1回研究集会「情報管理専門職をめぐる民間企業と大学・学界—記録情報管理の現状と教育研究・人材育成—」

2017年11月17日（金）14時～16時に九州大学中央図書館4階 視聴覚ホール（箱崎キャンパス）で開催された。参加者は39名であった。

##### <プログラム>

三谷直也氏（株式会社 日立ドキュメントソリューションズ）

「企画」「開発」「運用」が三位一体となったプロジェクトマネジメント支援 —記録情報管理の視点から—

高津隆氏（帝国データバンク史料館）

「企業の記録と資料を守るために —出番を待つアーカイブズ専門家—

岡崎敦氏（九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻）

「21世紀の情報管理専門職の養成について」

パネルディスカッション

<まとめ> 第1回研究集会では、九州大学大学院ライブラリーサイエンス専攻と主催し、企業側から2名、大学・学界側から1名の報告者を招いて、今後の民間企業の記録情報管理を担う情報管理専門職のあり方を問うシンポジウムを開催した。報告では、三谷氏から業務プロセス全体の管理をプロジェクトマネジメントの技法を用いて支援する事業の実際と課題について、また、高津氏からは企業資料の価値の再発見や利活用が求められるビジネス・アーキビストのあり方について、岡崎氏からは近年の欧米の情報管理専門職をめぐる動向を踏まえて、業務全体のマネジメントと「価値付け」戦略という2つのミッションを担う専門職養成のあり方についての報告がなされた。その後のフロアを含めたパネルディスカッションでは、報告のなかで提示されたミッションを担う情報管理専門職をどのように育成していくかという問題について、中心的に議論された。本会が民間企業と直接的に議論する場はこれまでにあまり例がなく、今後も同様の課題について継続的に取り組んでいく必要がある。

なお、本研究集会の概要は、国立研究開発法人 科学技術振興機構『情報管理』誌の「集会報告」（Vol. 60, No. 12, 2018.3, pp. 898-901）に掲載した。

#### ②第2回研究集会「新潟県立環境と人間のふれあい館（新潟水俣病資料館）の取組みと課題」

2018年1月20日（土）14時～17時に学習院大学西1号館301教室で開催された。参加者は35名であった。

##### <プログラム>

塚田眞弘氏（新潟県立環境と人間のふれあい館（新潟水俣病資料館）館長）

「新潟県立環境と人間のふれあい館（新潟水俣病資料館）の取組みと課題」

ディスカッション コメンテータ 林美帆氏（あおぞら財団）

<まとめ> 研究集会では、新潟水俣病発生および原因究明の経緯について、現地の写真なども交えて紹介された。つづけて報告者が勤務される新潟県立環境と人間のふれあい館（新潟水俣病資料館）について、その命名の過程などにも触れつつ日々の活動が紹介された。所蔵資料収集の経緯や、整理方法、利用に供するためのハードルなどが報告され、あわせて館の重要な活動として、多様なステークホルダーとの間で資料館がどのような関係を結んでいるか、必ずしも利害がすべて一致するわけではない関係者のあいだでどのように館長として調

整を図っているかという取り組みが示された。報告後、本報告の意義をまとめるコメントにつづけて活発な質疑応答と議論がなされた。

#### (4) 2018年度大会の準備

日本アーカイブズ学会2018年度大会を、2018年4月21日(土)、22日(日)の2日間、東洋大学で開催することとし、以下のような内容で講演会、自由論題研究発表会、ポスター研究発表、企画研究会シンポジウムの準備を進めた。

##### 4月21日(土)【東洋大学白山キャンパス6号館2階】

<総会>

<講演会>

講演者：宇賀克也(東京大学大学院法学政治学研究科教授)

演題：「意思形成過程の公文書の作成・保存と情報公開」

##### 4月22日(日)【東洋大学白山キャンパス6号館2階】

<自由論題研究発表会>

蓮沼素子「まんがアーカイブズ利用に向けたFinding Aidsに関する一考察」

青木祐一、名村優子「民間団体アーカイブズの整理・編成・記述のこころみ：日本力行会を事例として」

清水ふさ子「公文書から社史に描かれた企業活動を読み解く—国立公文書館収蔵の企業関連資料の調査分析を事例として—」

水島和哉「第二次世界大戦敗戦直後における日本の民間所在資料の状況—「近世庶民史料所在調査」調査書の分析を中心に—」

筒井弥生「大学アーカイブズと大学美術館アーカイブズの関係を人的ネットワークから読み解く—ハーバード大学調査報告—」

齋藤歩「アーカイブズ学に基づく建築レコード整理の実践—米国型技法を用いた京都大学の試み—」

菅真城「大学アーキビストが行う研究について考える」

柴田知彰「市民視座による文書館の利用概念のパラダイムシフト—文書館制度の理念型に関する一試論—」

<ポスター研究発表>

岡崎彩香「レファレンスサービス向上に関する一考察—Archival Reference Knowledgeモデルの紹介—」

川田恭子「アーカイブズの資料保存における専門職連携—村井吉兵衛資料を事例として—」

高田智和、関川雅彦「言語資料に含まれる個人情報取り扱いに関する研究—国立国語研究所研究資料室の事例を中心に—」

新嶋聡「オーラル・ヒストリーのアーカイブズ学研究の可能性—「半自伝」オーラル・ヒストリーと自伝オーラル・ヒストリーの対比を通して—」

春木良且「高度成長期の地域記録史料としての「政策ニュース映画」の保存と公開—川崎市政ニュースを例に—」

<企画研究会シンポジウム>

テーマ：「アーカイブズとアカウンタビリティ」

川島真(東京大学)

「誰が誰への説明責任を担うのか：理念・制度・実態」

古賀崇（天理大学人間学部総合教育研究センター教授）

「政府・自治体の情報公開とアカウントビリティ：「適及的検証」の実現のために」

大木悠佑（学習院大学大学院アーカイブズ学専攻博士後期課程）

「アカウントビリティを支える公文書管理制度とレコードキーパー：Australasian の公記録法の視点から」

ファシリテーター：平野泉（立教大学共生社会研究センター）

## 2. 機関誌の発行

### (1) 2017年度の発行状況

①『アーカイブズ学研究』第26号（A4判、132頁） 発行日：2017年6月30日

#### 【主な内容】

論文：加藤諭「情報公開法施行前の国立大学における文書管理規程と文書移管—東京大学を事例に—」

研究ノート：筒井弥生「ポズナーの『日本のアーカイブズ施設とレコードの集積の仮リスト』—「ウォーナーのリスト」との関係—」

動向：金甫榮「国際アーカイブズ評議会（ICA）2016年ソウル大会参加記」

宮間純一「千葉県文書館収蔵公文書の廃棄・移動をめぐる問題に関する報告」

倉方慶明「「学会登録アーキビストに関するアンケート」実施報告」

小澤梓「日本アーカイブズ学会2016年度第1回研究集会「いま再び学会資格制度を考える～学会登録アーキビスト制度に関するアンケート結果報告会～」に参加して」

書評：富善一敏「白井哲哉・須田努編『地域の記録と記憶を問い直す—武州山の根地域の—九世紀—』」

西村慎太郎「井上幸治『古代中世の文書管理と官人』」

紹介：和崎光太郎「学校・施設アーカイブズ研究会編『学校・施設アーカイブズ入門』」

高増慧「天野真志『よみがえるふるさとの歴史11 記憶が歴史資料になるとき—遠藤家文書と歴史資料保全』」

宮間純一「東京都公文書館編『延遼館の時代—明治ニッポンおもてなし事始め』」

②『アーカイブズ学研究』第27号（A4判、157頁） 発行日：2017年12月31日

#### 【主な内容】

論文：寺澤正直「新たなアーカイブズ記述の国際標準 Records in Context (RiC)への対応に係る課題の抽出」

座談会：安澤秀一、大藤修、安藤正人「日本におけるアーカイブズ学の発展」

特集【2017年度大会関係】：

講演 高埜利彦「日本のアーカイブズ制度を回顧する」

企画研究会「日本アーカイブズ学会登録アーキビスト制度の発展をめざして」

趣旨説明

保坂裕興「アーキビスト養成の国際的動向—能力保障型の人材育成—」

加藤丈夫「わが国におけるアーキビスト育成の取り組み—職務基準書を用いたアーカイブズ専門職制度の開発—」

参加記：松崎裕子「大きな文脈の中に位置づける—アーカイブズ専門職の職務と倫理—」

田嶋知宏「日本アーカイブズ学会2017年度大会に参加して」

高村恵美「日本アーカイブズ学会2017年度大会に参加して」

### 小特集【2016年度第2回研究集会】:

趣旨説明

研究ノート 蜂谷紀之「水俣病情報センターの資料整備と活用—水俣病研究における歴史的資料の意義—」

参加記 佐藤崇範「水俣病情報センターの資料整備と活用—水俣病研究における歴史的資料の意義—」

動向: 鈴木三美子「2016年度アーカイブズ・カレッジ修了論文報告会に参加して」

書評: 板垣貴志「国文学研究資料館編『社会変容と民間アーカイブズ—地域の持続へ向けて—』」

紹介: 吉川也志保「久留島典子・高橋則英・山家浩樹編『文化財としてのガラス乾板—写真が紡ぎなおす歴史像』」

中谷正克「渡辺尚志編『アーカイブズの現在・未来・可能性を考える—歴史研究と歴史教育の現場から—』」

本多俊彦「湯山賢一『古文書の研究—料紙論・筆跡論』」

### (2) 論文等の投稿状況

2017年4月から2018年3月までに論文4本の投稿があった。

## 3. 学会普及および対外交流活動

### (1) 出版助成

2017年12月1日から2018年1月31日までの間、申請の受付を実施し、2件の申請があった。審査委員会による審査の結果、1件が採択された。

### (2) 海外関係機関との交流

#### ①国際アーカイブズ評議会 (International Council on Archives : ICA)

2017年度ICA年次大会は、2017年11月27日～29日にメキシコ・メキシコシティで開催された。会員の派遣は行わなかった。

#### ②国際アーカイブズ評議会東アジア地域支部 (East Asian Regional Branch of International Council on Archives : EASTICA)

2017年度EASTICA総会及びセミナーは、2017年11月6日～9日に中国・貴陽市で開催された。会員の派遣は行わなかった。

### (3) 国内関係機関との交流

#### ①アーカイブズ関係機関協議会での意見交換

2018年1月31日に国立公文書館で開催された同協議会に、大友会長、保坂副会長、早川副会長が出席し、学会活動の現状について報告するとともに、「アーキビストの職務基準書 (平成29年12月版)」について意見交換を行った。

#### ②自治体アーカイブズ研究会への支援

2016年度に発生した千葉県文書館における収蔵公文書の大量廃棄・移動をめぐる問題について、機関誌『アーカイブズ学研究』26号に宮間純一委員による「千葉県文書館収蔵公文書の廃棄・移動をめぐる問題に関する報告」を掲載し、会員へ学会の取り組みを周知した。

2017年6月、同問題を受けて地方公共団体における公文書管理等の状況を把握・検討するために自治体アーカイブズ研究会が発足した。本会は、関東近世史研究会、首都圏形成

史研究会、千葉歴史学会、千葉歴史・自然資料救済ネットワーク、地方史研究協議会、日本史研究会、日本考古学協会、日本歴史学協会、東アジア近代史学会、明治維新史学会、歴史科学協議会、歴史学研究会、歴史教育者協議会とともに同会を支援してきた。具体的には、本会委員会から早川和宏副会長、高江洲昌哉委員が参加するとともに、寄付金依頼に応じて活動資金として6,000円を寄付した。

自治体アーカイブズ研究会は、2017年11月24日付で都道府県を中心に約80の地方公共団体に対して公文書管理や民間アーカイブズ保存の取り組み等の現状を問うアンケートを発送した。また、いくつかの地方公共団体については、さらに詳細な調査を進めている。アンケートの集計結果、調査結果は、本年6月に開催予定のシンポジウムにて発表される見込みとのことである。

#### (4) 後援

- ア. 後援：アート・ドキュメンテーション学会2017年度年次大会、東京工業大学博物館・百年記念館、2017年6月10日（土）～11日（日）
- イ. 後援：史料保存利用問題シンポジウム「地域史料の保存利用と公文書管理の在り方」、駒澤大学駒澤キャンパス1号館、2017年6月24日（土）
- ウ. 後援：2017年度ARMA International東京支部年次総会併設セミナー（第114回定例会）、中央大学駿河台記念館、2017年7月21日（金）
- エ. 後援：シンポジウム「学校資料の未来～地域資料としての保存と活用～」、横浜市歴史博物館講堂、2017年8月7日（日）
- オ. 後援：第11回資料保存シンポジウム「原資料保存とデジタルアーカイブその未来ーさまざまな取り組みの中からー」、一橋大学一橋講堂中会議場、2017年10月10日（火）
- カ. 後援：人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん2017）「Continuity and Innovationー人文学の継承と革新を促進する情報学ー」、大阪市立大学学術情報総合センター、2017年12月9日（土）～10日（日）
- キ. 後援：第5回公害資料館連携フォーラムin大阪「未来に「希望」を広げよう！公害資料館の“わ”」、大阪市立大学杉本キャンパス、2017年12月15日（金）～17日（日）
- ク. 後援：国際研究交流集会「災害国におけるアーカイブズ保存のこれからー技術交流・危機管理から地方再生へー」、国文学研究資料館大会議室、2018年2月6日（火）
- ケ. 後援：デジタルアーカイブ学会第2回研究大会「産業化するアーカイブ」、東京大学本郷キャンパス、2018年3月9日（金）～10日（土）

## 4. 登録アーキビスト

### (1) 認定・更新

「日本アーカイブズ学会登録アーキビストに関する規程」に基づき、2017年10月1日から31日までの間、申請の受付を実施した。2018年1月8日、資格委員会を開催し4名が学会登録アーキビストに認定され、29名の更新が認められた（資料7参照）。登録アーキビストに登録証および登録カードを発送した。

### (2) 研修会

第1回日本アーカイブズ学会登録アーキビスト研修会が、2017年7月22日（土）14時～17時に東京外国語大学本郷サテライトで開催された。参加者は29名であった。

<プログラム>

早川和宏氏（東洋大学・本会副会長）



「民間（収集）アーカイブズの調査・収集を巡る法的課題～物としてのアーカイブズ～」  
グループディスカッション（15分×3回のディスカッション）  
討論テーマ「民間アーカイブズの調査・収集で困ったこと～どうしたのか、法的にはどうすればよかったのか～」

<まとめ> 登録アーキビストを対象とした初の試みとなった本研修会では、講演者の早川氏より「木であれ、紙であれ、電磁的記録であれ、文書として存在する以上、法的には『有体物』に該当する。そのため、民法上の「物」（同法85条）に該当し、基本的に同法の適用を受けることになる。」（レジュメより抜粋）との観点から、物としてのアーカイブズの法的課題について講演がなされた。しばしば所蔵者との口約束により実施される調査・収集であるが、特に寄託については所蔵者の代替わりを想定し、所蔵者と良好な関係を築けている間に書面化が望ましいことが紹介された。また現行法はアーカイブズのことを意識して制定されたものではなく、よりアーカイブズが活動しやすい法整備を目指すためにも、現場における実務上の不都合について具体的な声を挙げていく必要があるとの指摘があった。講演後には参加者とともグループディスカッションが行われ、現場を知る登録アーキビストならではの活発な議論がなされた。

## 5. 機関誌の電子化

機関誌電子化検討ワーキンググループ（座長：早川副会長）において、『アーカイブズ学研究』の電子化をめぐる課題や今後の方針について検討を行った。

## 6. 事務業務

### (1) 事務内容

- ア. 会員関係事務（入会受付、会員名簿管理、会員への連絡など）
- イ. 会計事務（会費徴収、活動経費の支払いなど）
- ウ. 総会・大会・委員会準備、実施、議事録作成
- エ. 記録・アーカイブズの管理
- オ. 広報および普及活動
- カ. 他団体との交流関係事務

### (2) ウェブサイトの維持管理

- ア. ウェブサイトでの情報発信の充実と情報更新の迅速化に引き続き注力した。
- イ. ウェブサイトの更新  
2017年度において、ニュースの更新は19件であった。
- ウ. ウェブサイトのアクセス履歴（2017年4月1日～2018年3月31日）  
ヒット総数684, 659件（前年度は719, 058件）。

### (3) 広報活動

#### ①電子メールによる「日本アーカイブズ学会からのお知らせ」の配信

2017年度において、会告、主催・後援等の行事情報、関係諸団体・会員提供の各種情報、事務連絡等につき、18回の配信を行った。

#### ②公式SNSアカウントの運用

広報活動の一環として、Facebook及びTwitterで本会事務局の公式アカウントの運用を行った。

## 7. 役員（2018年3月31日現在）

2016年度総会において選出された次の25名の役員により、本会の事業を計画・実施した。

会長	大友 一雄	（人間文化研究機構国文学研究資料館）
副会長	早川 和宏	（東洋大学法学部）
	保坂 裕興	（学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻）
委員	阿久津 美紀	（学習院大学大学院）
	石原 香絵	（NPO法人映画保存協会）
	大木 悠佑	（学習院大学大学院）
	太田 尚宏	（人間文化研究機構国文学研究資料館）
	菅 真城	（大阪大学アーカイブズ）
	金 甫榮	（公益財団法人渋沢栄一記念財団）
	清原 和之	（学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻）
	倉方 慶明	（東京外国語大学文書館）
	坂口 貴弘	（創価大学創価教育研究所）
	鎮目 良文	（たばこと塩の博物館）
	白川 栄美	（東京大学文書館）
	関根 豊	（神奈川県庁）
	高江洲 昌哉	（神奈川大学非常勤講師）
	富善 一敏	（東京大学経済学部資料室）
	林 美帆	（公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団））
	針谷 武志	（別府大学文学部）
	平井 孝典	（藤女子大学文学部）
	藤吉 圭二	（追手門学院大学社会学部）
	宮間 純一	（人間文化研究機構国文学研究資料館）
	矢野 正隆	（東京大学大学院経済学研究科）
監事	青木 祐一	（ワンビシアーカイブズ）
	渡邊 健	（(株) データ・キーピング・サービス）

## 8. 会員数（2018年3月31日現在）

正会員	459名	（前年度比18名増）
うち学生	54名	（前年度比8名増）
賛助会員	20団体	（増減なし）

## 資料 2

## 2017年度 決算 (案)

[2017年3月1日～2018年2月28日]

## 1 収入の部

単位：円

	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備 考
会費	2,300,000	2,573,000	273,000	一般5,000円×434人=2,170,000円 学生3,000円×51人=153,000円 賛助会員 10,000円×25口=250,000円
大会参加費	100,000	124,000	24,000	会員 500円×148人=74,000円 非会員 1,000円×50人=50,000円
会誌売上	200,000	46,250	▲ 153,750	
審査・登録料	307,000	181,000	▲ 126,000	新規・更新
その他収入	125,000	346,208	221,208	会誌広告掲載料、寄付（石原栄様（関東司法資料保存研究会））、大会開催助成金（学習院大学）、利子
繰越金	2,328,599	2,328,599	0	
計	5,360,599	5,599,057	238,458	

## 2 支出の部

	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備 考
人件費（賃金）	200,000	91,715	▲ 108,285	事務局アルバイト等賃金
謝礼金	60,000	53,000	▲ 7,000	登録アーキビスト審査謝金等
会議費	50,000	93,039	43,039	会議室賃料、総会委任状送料等
印刷製本費	1,500,000	1,523,336	23,336	会誌25・26・27号、大会資料等
委託料	500,000	362,494	▲ 137,506	会誌発送、webサイト管理等
事務費	250,000	252,245	2,245	郵送・通信料、振込手数料、事務用品等
旅費・交通費	250,000	212,730	▲ 37,270	研究集会スタッフ等
会費（関連機関協力費）	55,000	26,704	▲ 28,296	ICA会費
事務所賃料	400,000	397,872	▲ 2,128	33,156円×12ヶ月
積立金（学会推進基金）	500,000	500,000	0	
研究助成	300,000	0	▲ 300,000	
予備費	1,295,599	2,085,922	790,323	
計	5,360,599	5,599,057	238,458	

収入決算額 5,599,057円－支出決算額 3,513,135円＝2,085,922円 を2018年度会計に繰り越します。

学会推進基金	4,501,887	別立て定期積金
--------	-----------	---------

上記の通り報告します。

2018年4月21日

日本アーカイブズ学会会長 大友 一雄

資料 3

2017年度 会計監査報告

監 査 報 告 書

日本アーカイブズ学会会則第10条第4項の規定に基づき、会計帳簿など  
会計書類を審査した結果、2017年度の会計は適正に執行されていることを  
認めます。

2018年4月3日

監事 渡邊 健 

監事 青木 祐一 

## 資料4

### 2018年度事業計画（案）

#### 1. 大会、委員会、および研究集会等の開催

##### (1) 2018年度大会の開催と2019年度大会の準備

2018年度大会を2018年4月21日（土）・22日（日）に開催する。

2019年度大会を準備する（2019年春季開催）。

##### (2) 研究集会の企画・開催

研究集会を企画・開催する。また、首都圏以外での開催、および「アーキビストの職務基準書（平成29年12月版）」に関する研究集会の開催を検討する。この他、2019年度大会における研究集会を企画・準備する。これらの研究集会は、研究報告、シンポジウム、および見学・研修等々を行うものであり、本会研究活動の中心的な場とする。企画にあたっては次の諸点に留意する。

ア. 会員が相互に課題を出し合い、学会活動の方向を模索・形成していくこと。

イ. 正会員と賛助会員の積極的な意見交換を通して、共通の課題を発見し、それに取り組むこと。

ウ. 大学等教育研究機関とも連携し、アーカイブズ学の教育・普及、およびアーキビスト養成を進展・充実させること。

エ. 隣接分野・新興分野、あるいは関連諸機関・団体と交流し、共通の課題を発見し、それに取り組むこと。

オ. 海外の研究者・関連団体と交流し、研究動向を把握しながら、国際的視野のもとに研究活動を企画・推進すること。

##### (3) 委員会の開催

月に一回程度の頻度で委員会を開催する。

#### 2. 機関誌の発行

##### (1) 機関誌『アーカイブズ学研究』の発行

第28号を2018年6月に、第29号を2018年12月に発行する。

##### (2) 編集企画、投稿論文の審査事務、編集事務

機関誌の内容について、大会企画研究会や学界の動向等の成果を広く反映させる。アーカイブズ学研究の発展のために、投稿論文を広く募り、より良質な論文掲載に向けて努力する。また、編集事務の効率化を図る。

#### 3. 学会普及および対外交流活動

(1) 会員によるアーカイブズ学に関する研究を助成する。

(2) アーカイブズ関係の国際会議への会員派遣を行う。

##### (3) 他団体との交流関係事務

アーカイブズ関係機関協議会など関係各団体との連絡を密にし、積極的な共催・後援活動を進めるなかで、協力関係の拡充を図る。

#### 4. 規程類の整備

会運営の効率化、事務遂行の安定化に向けて規程類を整備する。

#### 5. 登録アーキビスト

##### (1) 登録アーキビストの認定

ウェブサイト等により積極的な広報に努める。2018年度の申請は、10月1日から10月31日までを申請受付期間とし、2019年2月末までに審査を行い、3月末までに申請者への通知および登録証の交付を行う。

##### (2) 登録アーキビストの更新

2013年度に認定した登録アーキビストの有効期間満了に伴い、10月1日から10月31日までを更新申請受付期間とし、2019年2月末までに審査を行い、3月末までに申請者への通知および登録証の更新と交付を行う。

##### (3) 規程改正

「日本アーカイブズ学会登録アーキビストに関する規程」の改正に向けた検討を始める。

##### (4) 研修会

昨年度に引き続き、登録アーキビストを対象とする研修を1回程度実施する予定である。

#### 6. 機関誌の電子化

機関誌電子化検討ワーキンググループにおいて、『アーカイブズ学研究』の電子化をめぐる課題や今後の方針について検討を進めていく。

#### 7. 事務業務

##### (1) 事務体制の整備

事務体制の充実と刷新を図る。

##### (2) ウェブサイトの維持管理

研究集会、後援行事等の開催案内や機関誌の発行など、学会の活動とその成果に関する情報を速やかに発信していく。分かりやすく利用しやすいウェブサイトを目指して、定期的な見直しやリニューアルの検討を行う。ウェブサイトによる情報提供が安全かつ確実にできるよう、セキュリティ対策やコンテンツのバックアップに努める。

##### (3) 財務基盤の強化

学会活動発展のため、経費支出の見直しを行うと同時に、会費納入率の向上に努め、財務基盤の強化を図る。

##### (4) 法人化に向けての準備

学会法人化に向けて検討を継続する。

## 資料 5

## 2018年度 予算 (案)

[2018年3月1日～2019年2月28日]

## 1 収入の部

単位：円

	前年度 予算 (A)	本年度 予算 (B)	比較増減 (B-A)	備 考
会費	2,300,000	2,500,000	200,000	
大会参加費	100,000	120,000	20,000	
会誌売上	200,000	40,000	△ 160,000	
審査・登録料	307,000	150,000	△ 157,000	新規・更新
その他収入	125,000	100,000	△ 25,000	
繰越金	2,328,599	2,085,922	△ 242,677	
計	5,360,599	4,995,922	△ 364,677	

## 2 支出の部

	前年度 予算 (A)	本年度 予算 (B)	比較増減 (B-A)	備 考
人件費 (賃金)	200,000	250,000	50,000	事務局アルバイト、会誌電子化等
謝礼金	60,000	60,000	0	登録アーキビスト審査謝金等
会議費	50,000	70,000	20,000	
印刷製本費	1,500,000	1,190,000	△ 310,000	会誌28・29号、大会資料等
委託料	500,000	650,000	150,000	会誌発送、webサイトリニューアル等
事務費	250,000	250,000	0	郵送・通信料、振込手数料、事務用品等
旅費・交通費	250,000	300,000	50,000	講演者、研究集会スタッフ等
会費 (関連機関 協力費)	55,000	115,000	60,000	ICA会費、EASTICA会費 (2ヶ年分)
事務所賃料	400,000	400,000	0	
積立金 (学会推 進基金)	500,000	0	△ 500,000	
出版助成	300,000	600,000	300,000	2017・2018年度採択分 (費目名変更)
予備費	1,295,599	1,110,922	△ 184,677	
計	5,360,599	4,995,922	△ 364,677	

## 資料6

### 役員改選

2018～2019年度 日本アーカイブズ学会役員（案）

会 長（定員1名）	大友 一雄*				
副会長（定員2名）	早川 和宏*	保坂 裕興*			
委 員（定員20名以内）	阿久津美紀*	石原 香絵*	大木 悠佑*	太田 富康	
	柏原 洋太	菅 真城*	清原 和之*	倉方 慶明*	
	坂口 貴弘*	鎮目 良文*	白川 栄美*	関根 豊*	
	高江洲昌哉*	高科 真紀	林 美帆*	針谷 武志*	
	藤吉 圭二*	森本 祥子	矢野 正隆*	湯上 良	
監 事（定員2名）	青木 祐一*	富善 一敏			

(\*は再任)

#### (参 考)

以下は、2018年1月19日付会告による立候補者である。

#### 1. 会長候補者（定員1名）

氏 名：大友 一雄

居住地：千葉県

略 歴：(財)徳川黎明会徳川林政史研究所、国文学研究資料館、総合研究大学院大学  
立候補の理由：アーカイブズ学の発展と、それに関わる方々の研究交流の場としての日本アーカイブズ学会の重要性に鑑み、微力ながら引き続き貢献したいと考えました。

推薦者名：石原香絵・富善一敏・早川和宏

#### 2. 副会長候補者（定員2名）

##### (1) 氏 名：早川 和宏

居住地：東京都

略 歴：高岡法科大学法学部、大宮法科大学院大学、法律事務所フロンティア・ロー、桐蔭横浜大学、東洋大学法学部

立候補の理由：自らの研究成果を実務に還元したい。

推薦者名：石原香絵・鎮目良文・富善一敏

##### (2) 氏 名：保坂 裕興

居住地：東京都

略 歴：学習院大学史料館、駿河台大学、学習院大学大学院アーカイブズ学専攻

立候補の理由：これまでの様々なアーカイブズ学研究の成果を受け継ぎながら、一層の発展のために貢献したい。

推薦者名：大木悠佑・坂口貴弘・早川和宏



3. 委員候補者（定員20名以内）

(1) 氏名：阿久津美紀

居住地：東京都

略歴：学習院大学大学院アーカイブズ学専攻、日本学術振興会

立候補の理由：さらなるアーカイブズ学の発展に貢献したい。

推薦者名：大木悠佑・早川和宏・保坂裕興

(2) 氏名：石原 香絵

居住地：東京都

略歴：東京国立近代美術館フィルムセンター、NPO 法人映画保存協会、名古屋学芸大学メディア造形学部

立候補の理由：アーカイブズ学の発展に貢献したい。

推薦者名：大木悠佑・早川和宏・保坂裕興

(3) 氏名：大木 悠佑

居住地：東京都

略歴：学習院大学大学院アーカイブズ学専攻、日本銀行金融研究所アーカイブ、武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館、江東区総務部総務課区政資料室

立候補の理由：日本におけるアーカイブズやアーキビストを取りまく課題を当学会が広く、深く取り上げることでアーカイブズの周知と理解が深まると思います。こうした学会活動に少しでも貢献したいと思います。

推薦者名：鎮目良文・保坂裕興・矢野正隆

(4) 氏名：太田 富康

居住地：埼玉県

略歴：埼玉県立文書館、県民部県史編さん室、教育局文化財保護課、埼玉県立博物館、教育局生涯学習文化財課

立候補の理由：微力ですが、学会発展のお役に立てればと思います。

推薦者名：富善一敏・早川和宏・保坂裕興

(5) 氏名：柏原 洋太

居住地：東京都

略歴：国立公文書館アジア歴史資料センター、日本銀行金融研究所アーカイブ

立候補の理由：明治期の行政文書を分析対象として、これまで研究をおこなってきました。文書館やアーキビストの方々から得た学恩に報いるために、微力ながら日本アーカイブズ学会に貢献したいと考え、委員に立候補いたしました。

推薦者名：大木悠佑・宮間純一・山崎圭

(6) 氏名：菅 真城

居住地：大阪府

略歴：広島大学50年史編集室、広島大学文書館設立準備室、広島大学文書館、大阪大学文書館設置準備室、大阪大学アーカイブズ、大阪大学共創機構社会学共創本部

立候補の理由：日本にアーカイブズ文化を定着させるために助力したい。特に関西地区での活動について。

推薦者名：早川和宏・保坂裕興・宮間純一

(7) 氏名：清原 和之

居住地：東京都

略歴：九州大学大学文書館、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻

立候補の理由：アーカイブズ学とアーカイブズ学会の発展に寄与していきたいと思いません。

推薦者名：大木悠佑・高江洲昌哉・保坂裕興

(8) 氏名：倉方 慶明

居住地：東京都

略歴：東京外国語大学文書館

立候補の理由：学会の会務が適切に遂行されるようにするため。

推薦者名：大木悠佑・高江洲昌哉・富善一敏

(9) 氏名：坂口 貴弘

居住地：東京都

略歴：国文学研究資料館、京都大学大学文書館、創価大学創価教育研究所

立候補の理由：アーカイブズ学の活性化と学会の運営に積極的に参加したい。

推薦者名：大木悠佑・富善一敏・矢野正隆

(10) 氏名：鎮目 良文

居住地：東京都

略歴：千葉県文書館、たばこと塩の博物館

立候補の理由：学会の発展と企業アーカイブズの裾野を広げることに寄与したい。

推薦者名：富善一敏・早川和宏・矢野正隆

(11) 氏名：白川 栄美

居住地：千葉県

略歴：東京大学文書館

立候補の理由：アーカイブズ学とアーカイブズ学会の発展に寄与したいため。

推薦者名：富善一敏・早川和宏・宮間純一

(12) 氏名：関根 豊

居住地：神奈川県

略歴：神奈川県庁

立候補の理由：微力ながらアーカイブズ学の発展に貢献したいため。

推薦者名：鎮目良文・高江洲昌哉・矢野正隆

(13) 氏名：高江洲昌哉

居住地：東京都

略歴：国立公文書館、法政大学環境アーカイブズ、神奈川大学、青山学院大学、立教大学

立候補の理由：これまで研究分野の関係上、アーカイブズ学のお世話になっており、研究動向に接する機会を深め、自身の理解を深めることと、サポート役としてア

ーカイブズ学会の発展に貢献したいと思い、立候補した。

推薦者名：鎮目良文・富善一敏・宮間純一

(14) 氏名：高科 真紀

居住地：東京都

略歴：国文学研究資料館、学習院大学大学院

立候補の理由：日本におけるアーカイブズ学の更なる発展に寄与したい。

推薦者名：高江洲昌哉・早川和宏・保坂裕興

(15) 氏名：林 美帆

居住地：大阪府

略歴：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）

立候補の理由：民間の公害資料館の運営および公害資料館ネットワークの経験を学界発展に活かしたい。

推薦者名：石原香絵・富善一敏・早川和宏

(16) 氏名：針谷 武志

居住地：大分県

略歴：別府大学文学部

立候補の理由：日本アーカイブズ学会の活動を九州に広げるための足がかりを作っていくために役立ちたいとの志望から。

推薦者名：石原香絵・富善一敏・早川和宏

(17) 氏名：藤吉 圭二

居住地：大阪府

略歴：高野山大学文学部、追手門学院大学社会学部

立候補の理由：アーカイブズ学の発展およびアーカイブズ学に関心を持つ人々の増加を特に近畿圏において図りたいため。

推薦者名：高江洲昌哉・富善一敏・早川和宏

(18) 氏名：森本 祥子

居住地：東京都

略歴：国文学研究資料館史料館、藤沢市文書館、埼玉県立文書館、国立国語研究所、学習院大学大学院アーカイブズ学専攻、江東区区政資料室、東京大学文書館

立候補の理由：アーカイブズに関わる議論や活動を広げていくことに、貢献したいため。

推薦者名：富善一敏・早川和宏・保坂裕興

(19) 氏名：矢野 正隆

居住地：埼玉県

略歴：東京大学大学院経済学研究科

立候補の理由：アーカイブズ学研究の進展と、アーカイブズの普及に寄与するため。

推薦者名：鎮目良文・富善一敏・早川和宏

(20) 氏名：湯上 良

居住地：東京都

略 歴：国文学研究資料館

立候補の理由：イタリアのアーカイブズや関連行政について研究を続けてきました。制度は大きく異なりますが、日本と歴史的経緯や文書の残存状況がよく似ているイタリアの事情を基軸として、アーカイブズ学の発展に寄与したいと考え、立候補をいたします。

推薦者名：富善一敏・保坂裕興・宮間純一

#### 4. 監事候補者（定員2名）

(1) 氏 名：青木 祐一

居住地：東京都

略 歴：日本銀行金融研究所アーカイブ、江東区地域振興部文化観光課文化財係、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻、株式会社ロンビシアーカイブズ

立候補の理由：民間人の立場から学会の活動を監視するため。

推薦者名：鎮目良文・富善一敏・宮間純一

(2) 氏 名：富善 一敏

居住地：東京都

略 歴：東京大学経済学部資料室

立候補の理由：日本のアーカイブズ学及びアーカイブズ・コミュニティの進展に寄与するため。

推薦者名：石原香絵・鎮目良文・早川和宏

## 資料 7

## 2017年度認定 登録アーキビスト

登録番号	氏名	居住地	有効年度
【新規登録者】			
JSAS2017001	宮平 さやか	東京都	2018-2022
JSAS2017002	中臺 綾子	千葉県	2018-2022
JSAS2017003	小清水 萌木	京都府	2018-2022
JSAS2017004	薄井 達雄	神奈川県	2018-2022
【更新登録者】			
JSAS2012001	柴田 知彰	秋田県	2018-2022
JSAS2012002	西 光三	東京都	2018-2022
JSAS2012004	富田 任	茨城県	2018-2022
JSAS2012005	筒井 弥生	東京都	2018-2022
JSAS2012006	岡田 昭二	群馬県	2018-2022
JSAS2012008	水野 保	東京都	2018-2022
JSAS2012009	喜多 恵	福岡県	2018-2022
JSAS2012010	島津 千登世	神奈川県	2018-2022
JSAS2012012	橋本 久美子	東京都	2018-2022
JSAS2012013	大友 一雄	千葉県	2018-2022
JSAS2012014	齋藤 柳子	東京都	2018-2022
JSAS2012015	濱田 英毅	東京都	2018-2022
JSAS2012016	吉田 千絵	北海道	2018-2022
JSAS2012017	坂口 貴弘	東京都	2018-2022
JSAS2012018	毛塚 万里	千葉県	2018-2022
JSAS2012019	村上 民	東京都	2018-2022
JSAS2012020	杉浦 秀典	東京都	2018-2022
JSAS2012022	安藤 福平	広島県	2018-2022
JSAS2012023	西向 宏介	広島県	2018-2022
JSAS2012024	中村 崇高	東京都	2018-2022
JSAS2012025	浅野 真知	東京都	2018-2022
JSAS2012026	太田 富康	埼玉県	2018-2022
JSAS2012027	上田 由美	東京都	2018-2022
JSAS2012028	小根山 美鈴	千葉県	2018-2022
JSAS2012029	吉岡 精一	北海道	2018-2022
JSAS2012031	伊藤 一晴	東京都	2018-2022
JSAS2012034	柳田 春子	福島県	2018-2022
JSAS2012036	岩橋 清美	神奈川県	2018-2022
JSAS2012038	櫛原 直樹	神奈川県	2018-2022

## 参考資料

# 会 則

## 目 次

前 文

第1章 総則

第2章 目的および事業

第3章 会員

第4章 役員及び事務局

第5章 会議

第6章 会計

第7章 記録の管理、公開及び保存

第8章 会則の変更及び本会の解散

第9章 関連諸規程

附 則

### 【前 文】

私たちは、日本のみならず世界に遺されたアーカイブズ、そして将来のアーカイブズとなる記録の生成、保存及び活用についての理論と技法を研究し、実践するため、この学会を創設することとした。

アーカイブズは、団体、家及び個人が作成し、収受し、保存されてきた記録からなり、手書きや印刷された紙媒体のもの、電磁的記録のもの、そしてオーラルヒストリーなどからなっている。

このアーカイブズに関する科学研究は、(1)アーカイブズの管理に関する研究、(2)アーカイブズの成立・構造・伝来などに関する研究、(3)アーカイブズの教育・普及に関する研究などから構成されており、歴史学、社会学、情報学など既存の様々な学問分野の学理と連携しつつ、独自の領域をもつものである。この科学研究は、アーカイブズの保存及び関連する諸課題の解決に資するという役割を担うものでもある。

また、この科学研究と同時に、アーカイブズの保存及び関連する諸課題に対する実践を、このアーカイブズの科学研究に関わるものは求められている。

アーカイブズに関する科学研究と実践を担うものとしてアーカイブズ学を構築し、アーカイブズの適切な生成、保存、活用による平和で豊かな民主社会の実現に資するため、この会則を制定する。

### 第1章 総 則

(名称)

第1条 本会の名称は、日本アーカイブズ学会（英文名 The Japan Society for Archival Science 略称 JSAS）とする。

### 第2章 目的及び事業

(目的)

第2条 本会は、アーカイブズに関する調査・研究を行い、わが国におけるアーカイブズ学の進展に寄与するとともに、アーカイブズ制度の発展に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 研究集会及び総会の開催
- (2) 機関誌及びアーカイブズ関係文献の刊行

- (3) ウェブサイトの運営
- (4) 国内外の関係団体・機関との交流
- (5) その他必要と認める事業

### 第3章 会 員

#### (会員)

第4条 本会の会員の種類は、正会員及び賛助会員とする。

- 2 正会員は、本会の目的に賛同する個人とする。
- 3 賛助会員は、本会の目的に賛同し、その事業を援助する団体とする。

#### (入退会)

第5条 本会に入会しようとするものは、入会申込書に所定事項を記入して申し込み、会費を納めなければならない。

- 2 本会の退会は、退会の申し出による。ただし、正当な理由なしに会費を、通知された時期までに2回滞納した場合は退会したものとみなす。
- 3 本会の目的に反する行為のあった会員、または本会の名誉を著しく傷つけた会員に対しては、総会の議決によって会長は、退会を勧告することができる。

#### (会費)

第6条 会員は、当該年度の年会費を、通知された時期に納入するものとする。

- 2 会費の額は、総会の議決をもってこれを定める。
- 3 納入した会費は、これを返還しない。

#### (会員の権利)

第7条 会員は、次の権利を有する。

- (1) 総会への出席
- (2) 本会機関誌及び連絡・通信物の受領
- (3) 本会主催事業への参加

#### (正会員の権利)

第8条 正会員は次の権利を有する。

- (1) 総会における議決
- (2) 本会機関誌等への投稿
- (3) 本会研究集会における研究発表

### 第4章 役員及び事務局

#### (役員)

第9条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 委 員 20名以内
- (4) 監 事 2名

#### (役員の仕事)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、会長の責務を代行する。
- 3 委員は、会務を執行する。
- 4 監事は、会計を監査する。

#### (役員を選出・任期)

第11条 役員は、総会で選出される。

- 2 役員の仕事は、1期2年とし、再任は妨げない。但し、同じ役職では3期6年を上限とする。
- 3 任期途中で役員に欠員ができ、会務の執行等に支障を生ずるおそれがあるときは、これを補充す

ることができる。補充役員の任期は、当該役員の残任期間とする。

(事務局)

第12条 本会に事務局を置く。

2 事務局に専任の職員を置くことができる。

## 第5章 会議

(会議の種類)

第13条 会議は、総会及び委員会とする。

(総会)

第14条 総会は、本会最高の決定機関であって、この会則において別に規定するもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算に関する事項
- (2) 事業報告及び決算の承認に関する事項
- (3) 委員会において総会に付議する必要があると認めた事項
- (4) 総会出席正会員から提案され、議案として認められた事項

2 総会は、年1回会長が招集して春季に開催する。この他、正会員の5分の1以上から書面で総会に付議すべき事項を示して総会開催請求があったとき、又は会長が必要と認めるとき、会長は臨時にこれを招集する。

3 総会は、正会員の10分の1以上の出席をもって成立する。

4 総会の議決は、出席正会員の過半数の同意による。

5 総会の議長は、出席正会員のうちから選出する。

6 総会の会議録は、議長が署名し、速やかに公開する。

(委員会)

第15条 委員会は、会務の執行に関する事項を審議決定する。

2 委員会は、会長が副会長及び委員を招集して開催する。

## 第6章 会計

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入及びその他の収入による。

2 本会の会計年度は、3月1日に始まり、翌年2月末日に終わる。

3 収支決算は、毎会計年度終了後、監事の監査を経て、総会に報告しなければならない。

## 第7章 記録の管理、公開及び保存

(記録の管理)

第17条 会務の執行等にあたっては、適切な記録の管理を行わなければならない。

(記録の公開)

第18条 本会の記録は、原則として公開しなければならない。

(アーカイブズの保存及び公開)

第19条 本会の記録のうち、永続的保存価値を有すると認められるものは、アーカイブズとして保存し公開しなければならない。

## 第8章 会則の変更及び本会の解散

(会則の変更)

第20条 本会会則の変更は、総会の議決を得なければならない。

(本会の解散)

第21条 本会の解散は、総会において正会員の3分の2以上の同意を得なければならない。

## 第9章 関連諸規程

(関連諸規程)

第22条 会務執行等に必要なる諸規程は、別に定める。



附 則

(施行期日)

この会則は、2004年4月24日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2008年4月19日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2011年4月23日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2013年4月20日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2015年4月25日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2016年4月23日から施行する。

(事務局)

事務局は、下記のところに置く。

〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5

国際善隣会館5階

## 総会運営規程

(目的)

第1条 この規程は、日本アーカイブズ学会会則第14条に定める事項のほか、同第22条の規定にもとづき、総会の運営に関し必要な事項を定める。

(司会者)

第2条 司会者は、会長が指名し議長決定までの責任を持つ。

2 司会者は、仮議長となって議長を選出する。

(議長)

第3条 議長は1名ないし2名とする。

2 議長は、総会の秩序を保持し議事を整理して会議の運営と進行に責任を持つ。

3 議長は、会則第14条第3項により定足数を確認の後、総会の成立を宣言する。ただし、出席者が定足数に満たないときは、休息又は散会あるいは延会を宣言する。

(書記)

第4条 議長は、議事を記録するため出席正会員のなかから書記2名を指名する。

(発言者)

第5条 会議で発言する場合は挙手し、議長の指名を受けなければならない。

2 議長より指名を受けたときは、発言に先立ち、氏名を明らかにしなければならない。

(議案の提出)

第6条 会則第14条第1項第4号により提案をする場合は、次の各号による。

(1) 提案要旨を総会の30日前までに会長に提出しなければならない。

(2) 前号に定める期限以降に、緊急の事情により提案の必要が生じた場合は、総会開始までにその事由と要旨を会長に申し出なければならない。

(採決)

第7条 議長は、採決を行うときは、その旨を宣言する。

2 採決は、次の方法の一つとし、議長はその方法を会議に諮って採決する。

(1) 拍手

(2) 挙手

(3) 無記名投票

3 採決の順序は、原則として議案に対する否決、修正、賛成の順序で行う。

4 採決を行った場合は、議長はその結果を宣言する。

(発言停止、退場)

第8条 議長は、この規程に違反し、注意に従わない者を発言の停止あるいは退場させることができる。

(議事録)

第9条 総会の議事録には、次の各号に掲げられた事項が記載されなければならない。

(1) 開催日時及び開催場所

(2) 出席正会員数

(3) 議長選任の経緯

(4) 開会宣言

(5) 報告事項の概要

(6) 審議事項の概要およびその審議結果

(7) 閉会宣言

(規程の変更)

第10条 この規程は、総会の承認を受けなければ変更することができない。

(その他)

第11条 この規程に定めるもののほか、総会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、2005年4月5日開催の第12回委員会の議決により暫定的に施行する。

2 この規程は、2005年4月23日から施行する。

## 役員選出規程

(目的)

第1条 この規程は、日本アーカイブズ学会会則第11条に定める事項のほか、同第22条の規定にもとづき、役員選出の方法に関し必要な事項を定める。

(立候補)

第2条 役員に立候補しようとする者は、委員会による役員の改選又は補充の告示にしたがい、立候補する役職名とともに、その旨を委員会に届け出るものとする。

2 届出には正会員3名以上の推薦を要する。

(役員候補の決定)

第3条 委員会は、次の方法により役員案を総会に提案する。

(1) 立候補者は全員を総会に提案する。

(2) 立候補者数が前条第1項により告示された定数に満たない場合には、必要に応じて、委員会が本人の同意を得て選出し総会に提案する。

(総会による選出)

第4条 総会では次の方法により役員を選出する。

(1) 候補者数が第2条第1項により告示された定数と同数の役職は、総会運営規程第7条の規定に基づき選出する。

(2) 候補者数が第2条第1項により告示された定数を越える場合には、投票により選出する。

(投票)

第5条 投票は、第2条第1項により告示された定数に応じて、無記名連記方式で行う。

2 投票用紙は会場で有権者に配布された所定のものを用いる。

3 当選者は、役職ごとに得票数の多い者から当該定数を選出する。ただし、得票数が等しい場合は抽選によって順位を定め選出する。

(規程の変更)

第6条 この規程は、総会の承認を受けなければ変更することができない。

附 則

(施行期日)

この規程は、2005年4月23日から施行する。

